

背景

- 近年、令和元年東日本台風や令和2年7月豪雨等、全国各地で水災害が激甚化・頻発化
- 気候変動の影響により、21世紀末には、全国平均で降雨量1.1倍、洪水発生頻度2倍になるとの試算（20世紀末比）

あらゆる関係者の協働による治水へ

○河川、下水道、砂防、海岸等の管理者が主体となって行う治水対策に加え、集水域と河川区域のみならず、氾濫域も含めて一つの流域と捉え、その流域の関係者全員が協働して

- ①氾濫を未然に防止、または氾濫量を軽減する対策
- ②居住の安全を確保する対策
- ③避難時の安全を確保する対策

を総合的かつ多層的に取り組む。



県内の取組

※令和5年度までに県内19水系で策定・公表
うち令和3年度末までに10水系で策定・公表完了
(1級水系：4水系 2級水系：6水系)

○1級水系（4水系）

水系	協議会の開催状況
物部川	第1回 令和2年8月6日
	第2回 令和2年9月9日～9月17日（持ち回り開催）
	第3回 令和2年11月27日
	第4回 令和3年2月8日
	第5回 令和3年3月23日
仁淀川	第1回 令和2年8月6日
	第2回 令和2年9月9日～9月17日（持ち回り開催）
	第3回 令和2年11月26日
	第4回 令和3年2月8日
吉野川	第1回 令和2年8月20日（web会議）
	第2回 令和2年9月30日（web会議）
	第3回 令和3年3月25日（web会議）
四万十川	第1回 令和2年8月19日
	第2回 令和2年9月29日
	第3回 令和3年3月5日

メンバー	
市町村	関係市町村長
関係機関	高知気象台長 ※物部川・仁淀川
	森林整備センター ※物部川・仁淀川・四万十川
国	流域内事務所長
	流域内ダム事務所長
	中四国農政局 ※物部川・仁淀川・四万十川
	四国森林管理局
県	高知県危機管理部長
	高知県土木部長
	高知県農業振興部長
	高知県林業振興・環境部

○2級水系（15水系）

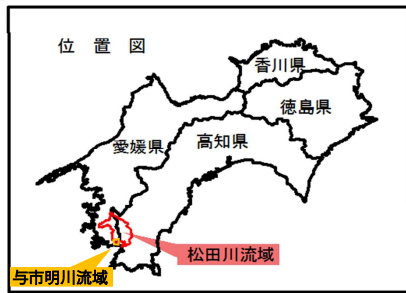
令和3年度より検討に着手



- ① 県内6土木事務所で設置している「豪雨に強い地域づくり推進会議」に、流域毎に流域治水を検討するための分科会を設置し検討

令和2年度に、流域全体で緊急的に実施すべき流域治水対策の全体像を「流域治水プロジェクト」として策定・公表

～桜の里、だるま夕日が見える地域の暮らしと産業を守る流域治水対策の推進～



○ 令和元年東日本台風では、各地で戦後最大を超える洪水により甚大な被害が発生したことを踏まえ、松田川水系については年超過確率1/50、与市明川水系については年超過確率1/30の規模の洪水が発生しても安全に流せる対策を進めるとともに、流域における砂防関係施設の整備、海岸の地震・津波対策や避難のためのソフト対策に取り組み、浸水被害の軽減を図る。

凡例

浸水した場合に想定される水深(ランク別)

- 0.5m未満の区域
- 0.5～3.0m未満の区域
- 3.0～5.0m未満の区域
- 5.0～10.0m未満の区域

--- 市町村境界

--- 松田川流域

--- 与市明川流域

- 砂防関係施設整備
- 治山施設整備



■ 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

- ・堤防整備、河道掘削、ゲートポンプ整備 等
- ・坂本ダムにおける事前放流等の実施
- ・砂防関係施設の整備
- ・海岸の地震・津波対策
- ・下水道施設の維持管理
- ・流域内農地の適正な保全
- ・森林の整備・保全
- ・調整池の維持管理 等

■ 事業規模
河川対策 (約30億円)
海岸対策 (約60億円)

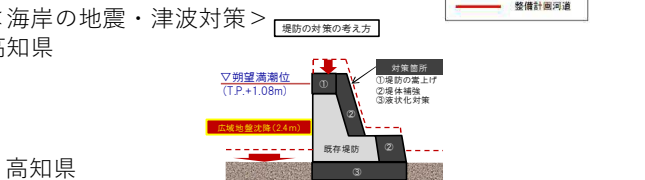
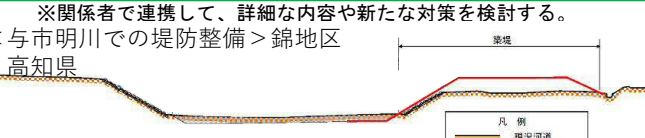
■ 被害対象を減少させるための対策

- ・土地利用の検討
- ・水害リスクの低い地域への重要施設の移転 等

■ 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

- ・水位計・カメラの設置、水位情報及び土砂災害警戒情報の提供
- ・高潮浸水想定図を用いた避難体制の確立
- ・災害時の支援協定
- ・防災教育、防災講演会、防災訓練による意識啓発
- ・共助の仕組みの強化、要配慮者利用施設の避難確保計画作成の促進
- ・洪水ハザードマップの周知
- ・災害時緊急輸送ルートの確保
- ・津波避難意識の向上
- 等

※今後、関係機関と連携し対策検討



<水位情報の提供> 高知県